

あなたも高教組へ

2面・教育全国署名スタート集会
・藤枝市平和展



発行所
静岡高等学校障害児学校教職員組合
〒420-0004 静岡市葵区末広町1-4
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyousho.jp/
e-Mail info@s-koukyousho.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814
Facebook:「静岡高教組」で検索

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています

主張

8月27日、中央教育審議会が答申し、教職調整額を支給する「給特法」は今でも合理性があるとして、長時間労働の法的な歯止めとなる残業代支給の仕組み導入を否定、教職員定数増は先送りしました。

そもそも「教職調整額」は、1971年「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」(給特法)が制定され、教職員の業務の特殊性から、超過勤務は下記4項目に限定し、小・中高障の教育職員に給料月額4%を支給することにした

その後も「非常災害等」のやむを得ない場合の業務、これらがあつた場合も、適切な配慮と近日中に超過分の軽減を行うこと、としました。

2022年の全教の調査では、教職員の時間外勤務は4週間で86時間24分。週21時間半。とすると約28%。当時の4%とはけた外れに増えています。給特法の改

時的な特別の事情により勤務せざるを得ない場合は、1か月100時間未満、1年間で720時間以内(連続する場合は、982という数字が出てきます。総員の24%、982人が不足していると言ったことができます。定数増を求める根拠に使えるはず。

給特法と教職調整額 4%は時代遅れ

8月27日、中央教育審議会が答申し、教職調整額を支給する「給特法」は今でも合理性があるとして、長時間労働の法的な歯止めとなる残業代支給の仕組み導入を否定、教職員定数増は先送りしました。

そのための労働基準法の規定を適用せず、時間外勤務手当・休日勤務手当は支給しないことになりました。

生活改善できる勧告を

～静岡県人事委員会と交渉～



要求書(重点項目)

- ・教職員賃金について、時間外の業務量や専門性に見合う適正な給与水準を確保すること。物価上昇に対応できるだけの賃金の引上げを行うこと。
- ・子どもたちの成長と発達を保障するうえで教職員の一致と協力が不可欠な学校現場にはなじまない教職員人事評価結果の賃金への反映について、その「効果」を検証すること。
- ・教職調整額の増額ではなく、給特法の「時間外勤務を命じない」原則は堅持しつつ、発生した測定可能な超過勤務に対し労基法第37条にもとづく時間外手当を支給すること。
- ・勤務時間管理システムの結果を活用し、長時間過密労働を根本的に解消する対策を講ずること。
- ・看護休暇の日数を拡大すること。また育児・介護休暇制度の改善をすすめること。男性の育休取得を推進すること。
- ・妊産婦や病気のある教職員の勤務軽減を徹底すること。治療を受けながら働くための必要な制度を整備すること。特別休暇からの復帰後も、短時間勤務など働き続けやすい制度を整えること。
- ・教職員の採用枠を拡大し、早期に臨時的任用・任期付職員を解消し、定年制職員にすること。更新時公募の撤廃や無期雇用化をすみやかに実現すること。
- ・会計年度任用職員非常勤講師に関して、専門性に見合った時間給単価の引き上げを行うこと。一時金は引き下げることなく、支給要件を勤務実態に合わせ緩和すること。超過勤務をせざるを得ない事態が生じた場合は、その時間に相当する賃金を支払うこと。
- ・子の看護休暇や病気休暇の有給化、有給休暇の採用当初付与など休暇制度を改善すること。
- ・再任用職員の賃金・諸手当(住居手当・扶養手当)は、年金支給開始までの生活を維持するにふさわしく改善すること。

9月3日付で高教組は、県人事委員会に「給与水準の引き上げなどを求める要求書」を提出しました。その後、9月11日には人事委員長と12日には事務局長との交渉を行い、5日と13日には要請行動を行いました。

静岡高教組女性部は、毎年県教委と交渉を行い、誰もがゆとりをもって働ける職場制度になるように働きかけています。教員の多忙化や教員不足が叫ばれる昨今、教職員の皆さんが心身ともに健康でいきいきと、子どもの気持ちにより添った教育を行うためには、働きやすい労働環境や休暇制度が必要だと考えます。女性部では、休暇制度の利用や働き方について現場の声を集めて労働環境や制度の改善を求め

よりよい労働環境、休暇制度にむけてみなさんの声を聞かせてくださいアンケート



申」での賃金格差拡大への懸念、「給特法」の問題点などを改めて主張しました。小川良昭・人事委員長からは、「教職調整額4%という現状はおかしいと思うが、埼玉超勤裁判(残業代支払いを認めず)もあり、法律の改正が必要だが、政治の問題が大きい」と述べた。人事委員長は、「県の職員が足りていない。人事委員会としても、公務員希望者をいかに増やすかを議論している」と述べた。

人間ドックに行ってきた。案の定、メタボ判定。少し減量したほうがいいとのこと。ほうがいの指導を受けていました。メタボリズムという言葉には、肥満という意味はないんです。新陳代謝が正しい意味。いわゆるメタボとは、摂取カロリーが消費カロリーを上回り、代謝ができていない状態。当然、肥満にも、不健康にも繋がります。これは、家にもいえること。モノが増え続け、捨てることをしなくては、家の中がメタボに。散らかり、汚れも溜まり、不健康な住環境になってしまいます。要は、体でも家でも、インプットとアウトプットのバランスが大事ということ。インプットした分、きちんとアウトプットすれば、そもそも、生物の定義は、動的平衡。食へて、排泄して、細胞がすべて入れかわったとしても、個体はその状態を保ち続けるということ。インプットしてアウトプットする代謝こそ、生きるということなのではないかと、勉強しています。インプットばかりしてアウトプットする機会が十分でなかったら、つまり暗記ばかりしていたら、脳内メタボになってしまいます。授業では、教師が一方的に生徒の頭へ情報をインプット。テストがあつても、インプットしたかどうかの確認程度。このままでは、生徒の脳内が不健康になってしまいかねません。極力、アウトプットの機会を増やすのが、今学期も課題のような気がしています。学習の代謝です。本読みばかり10回より、本読みして要約を五セットの方が、学力は定着するようです。口は二つ、耳は二つ、まずは生徒の声を聞き、声にも耳を傾けようと思えます。そして、適量の食事と適度な運動メタボリズムを体感して、授業に活かしたいものです。

視座

誰もが働きやすい職場にするためのアンケートにご協力お願いします



すべての子どもたちにゆきとどいた教育を 教育全国署名静岡県スタート集会 「子どもの最善の利益となるICT活用へ」

8月31日、静岡県男女共同参画センター「あざれあ」で、「すべての子どもたちにゆきとどいた教育を求める教育全国署名」静岡県スタート集会を開催し、現地に14人、オンラインで30人の参加がありました。教育予算増、教師の定数増、少人数学級化によるゆきとどいた教育の必要性を学習し、署名集めを通じての世論の喚起の必要性をあらためて確認しました。

熱く、衝撃的なお話をしてくださいました。

「講演要旨」
「先進国スウェーデン」学校で「デジタルからアナログへ」と転換

早くから「一人一台端末」普及を進め2014年には実現したスウェーデンでは、子どもたちの数学や読解力の急激な低下、教師の力量の低下が判明。新自由主義下での企業の機器売り込みと教育予算削減政策でデジタル化が進み、学校から紙の教科書が消え、教材費が削減され、教材を購入できなくなっていた。

質の高い学習教材の保障を求める声が高まり、「教育法」を改正。教科書は印刷された教材と定義し、昨年からは紙の書籍利用、静かな読書時間確保、手書きの練習に重点を置き、ICT活用時間を減らし、アナログに回帰することにしました。

OECDも、「大失敗」として、多くの国が続々と転換している。

「個別最適化」は
安上がり教育
アメリカでは、移民、貧困、低学力の多い地域で、公立学校の市場化・民営化・民間委託を拡大。「個別最適化された学習」と称し、一教室に130



製品に反映しているのだから当然だろう。

人位を詰め込み、個別のブースでパソコンに向き合わせ、教師の人件費を浮かせ、安上がり教育。これに学生たちが疑問の声をあげ、2018年にはICTを使わない権利を求めてストライキ。

「金持ちの家の子どもたちは、人間の教師から少人数で、オンライン授業を最小限にした本物の授業を受けているのに、僕たちは何時間もオンライン学習をさせられている。仲間と対面しての討論や生身の先生からのサポートやクラスメイト達との交流の時間がほとんどありません」と訴えた。

機器利用による「個人情報」の収集にも疑問・不審の声も。

シリコンバレーで働く親たちは、自分たちの作った製品を子どもから遠ざけ、低学年には有害とし、学校では中学2年まで一切コンピューターを使わせない。「依存性・中毒性を高める」研究を

「わかった気になる」
で脳が退化
見る・読む・聞くは感覚の入力、話す・書くは出力。入力して、分析し、組

み合わせ、合成して自分の言葉で出力する、この連動が大事。それが人間にしかない前頭前野の役割。予測し、事前に判断し、社会的規範や枠組みを踏まえた行動につながる。自制心、モラル、ユーモア、良心、パーソナリティをつくる。損傷すると、他の人を理解できず、融通が利かなくなり、冷淡になり、無気力・無関心になってしまう。

パソコンで見ただけで「分かった気になる」のは、脳の発達に阻害される。スマホ・ネットなど外部のメモ帳に頼ると、必要性に応じて取捨選択する必要がなくなり、脳のメモ帳ウィングメモリが退化する。自分にとって何が重要か、自分には何が欠けているのか、知っておくべきことは何か、言われたことに同意できるかなどを判断するためには、集中力が必要。ICT機器を使いながら「は集中力を妨げる」。

教師のコントロール下の利用が必要
脳は、言葉や文字にして出力して初めて必要な情報として認識する。入力情報量を過度に少なくすることで想像力の余地を残すことができる。教師が専門性を十分発揮できる環境のもとで、1時間以内の使用に抑え、コントロール「される」のではなく、「する」力の育成が必要である。

「第46回藤枝市平和展」 「つなげよう 平和の架け橋 語り継ごう 平和のバトン」



は、ライフワークともいえる作品で圧巻。「語り継がねば」の思いを強くしました。

11日午後からはホールで「青春の鼓動 平和だからこそ」。地域の高校5校を初めとする10の団体が参加、まさに地元の高校生や市民による「地域の文化祭」。

司会や運営も高校生が担い、朗読劇、書道、合唱等を通じて、学校と世代を超えて、平和への想いを共有しました。

オープニングは清流館高校書道部による大書。「無くさないで今ある平和を忘れないうで、たくさんの思いを未来 飛翔」と19名の部員が力強く揮毫。

続いてエバグリーンによる活動報告。今春の「全国高校生平和集会・焼津」、そこでつながった全国の仲間と広島での集会で再会し、「原水爆禁止世界大会」に参加、広島平和記念資料館等を訪れた時の思い出等を報告。焼津中、中央高校合

唱部は、「地球星歌」笑顔のために、「空の向こう側」、混声のための合唱組曲「時の女神」、『栄光の架け橋』等を熱唱。「祈り」のような歌に、心が洗われる。

藤枝北高校演劇部と「びわの花朗読の会」による「この子たちの夏1945・ヒロシマナガサキ」。世代を超えて一つの舞台を創ることが何より尊い。

焼津中央高校合唱部と「静岡うたごえ協議会」による合唱、「海に生きたあなたよ」と「原爆を許すまじ」。高校生と「うたごえ協議会」メンバー60余名の混声合唱は圧倒的。「三度許すまじ原爆を 世界の上に」の歌声に心を大きく揺さぶられる。

続いて藤枝北高校演劇部による朗読劇「バクダツの靴磨き」(米原万里作)、教科書にも掲載された作品。生徒が脚本化する取り組みは貴重だ。

うわべのまやかしの言葉に騙されないようにと「あじさい朗読会」が「リ秦王」を上演。

清流館高校福祉部「RCは「子ども食堂・お結び」での活動報告。ボランティアと協力し、約90食のお弁当を作り、子どもや高齢者に提供している。地味な活動ではあるが共感を得て、支援の呼び掛けに多くのカ

ンパが寄せられた。島田樟誠高校演劇部の朗読劇「島田空襲明日までつづく物語」。最後は働く若者のバンドの歌と演奏の勢いで「みんなで歌おう」。来場者と発表者が一緒に「約束のうた」(世界中の大人が武器を捨てたなら、世界中の子どもは歌を歌うだろう)、「翼をください」(悲しみのない、自由な空へ、翼はためかせ、行きたい)の大合唱でフィナーレ。



8月11日(日)、12日(月)藤枝市生涯学習センターで第46回藤枝市平和展を開催しました。ロビーや会議室では、今年が目玉「ビギニ核被災70年」を考える展示や発表。元教員の画家高橋茂次さんの「第五福竜丸」絵と文による連作」と、元高校教員の枝村三郎さんの研究と取り組み

清流館高校福祉部「RCは「子ども食堂・お結び」での活動報告。ボランティアと協力し、約90食のお弁当を作り、子どもや高齢者に提供している。地味な活動ではあるが共感を得て、支援の呼び掛けに多くのカ

